

【八丈町教育委員会】１人１台端末の利活用に係る計画

1. １人１台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

令和３年１月の中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』を踏まえ、ICT 環境を日常的に、かつ効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、八丈町教育大綱にある「これからの社会を力強く生き抜く」力をはぐくむ、質の高い学校教育の実現を目指す。

2. GIGA 第１期の総括

八丈町では令和２年度に町立小中学校６校に約５００台の１人１台端末、普通教室への大型ディスプレイ及び校内ネットワークの整備を行った。

また、令和６年度学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙調査における１人１台端末の活用は以下のような状況となっている。

■小学校

５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。					
	1	2	3	4	5
八丈町	40.4	21.3	34.0	4.3	0
東京都（公立）	27.6	36.7	23.9	8.3	3.4
全国（公立）	25.3	34.2	26.0	10.3	4.2

■中学校

１、２年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。					
	1	2	3	4	5
八丈町	59.6	34.0	2.1	2.1	0
東京都（公立）	30.9	37.2	23.2	5.9	2.4
全国（公立）	31.0	33.4	24.6	7.8	2.8

1. ほぼ毎日 2. 週３回以上 3. 週１回以上 4. 月１回以上 5. 月１回未満

小学校においては、学校間での利活用の格差が見られることが上記の結果に繋がっていると考えられる。

中学校においては、全国平均よりも活用が進んでおり、日常的に端末を使用する環境が整っていることがわかる。

3. 1人1台端末の利活用方策

八丈町教育委員会では、1人1台端末の利活用の方策として、以下の3点を実施することで活用を促進し、1人1台端末の環境を引き続き維持していく。

(1) 1人1台端末の積極的活用

「リーディングDXスクール事業」指定校を中心とした取組事例の横展開を図ることにより、更なる活用を推進していく。

また、子供たちがICTツールの善き使い手となることを目的とし、デジタルシティズンシップ教育を推進していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

文部科学省が令和6年4月に示した「教育DXに係る当面のKPI」と令和6年度学力・学習状況調査の学校質問紙調査における八丈町の現状値は以下の通りとなる。

以下の場面で児童生徒が端末を週3回以上活用する学校	現状値 (R6)	KPI (R8)
調べる場面	小：100% 中：100%	小：100% 中：100%
発表・表現する場面	小：66.6% 中：100%	小：80% 中：80%
教職員とやりとりする場面	小：100% 中：100%	小：80% 中：80%
児童生徒同士でやりとりする場面	小：66.6% 中：100%	小：80% 中：80%
理解度に合わせて課題に取り組む場面	小：66.6% 中：100%	小：80% 中：80%

中学校を中心として、概ね達成はされていますが、取組事例の横展開や研修を充実させることにより、未達部分を含め、それぞれの場面における活用の質の向上を図っていく。

(3) 学びの保障

不登校児童生徒が希望した際に、同時双方向の遠隔授業への参加や、授業視聴、教材の配布が行えるような環境の整備を図っていく。

また、支援を必要とする児童生徒への支援として「デイジー教科書」を始めとするICTツールの活用の普及を推進していく。